「家族葬」とは？

「家族葬」が「一般葬」を逆転したという記事が熊日新聞に掲載されていました。どんな葬儀を行うのかは、社会の状況や個人の意思が反映されます。最近では、少子高齢化が進んでいますが、同時に、やはりコロナ禍の影響もあり、参列者は減少傾向にあります。「葬儀」の簡素化、縮小化が急激に進む中、「家族葬」が「一般葬」を逆転したのだと思われます。

「家族葬」といってもまちまちです。四～五人の「家族葬」もあれば、二十～三十人の「家族葬」もあるようです。「家族葬」が増加した理由として、次のようなことが言われています。

① 故人が高齢で呼べる人がいない
② 金銭的理由
③ 親族に呼びたくない人がいる
④ 近所つきあいが面倒
⑤ 家族だけで、故人を偲びたい
⑥ 近年はコロナの蔓延

という事情が主な理由でしょう。

「葬儀を家族葬でしましたが、それでよかったのでしょうか…」という質問を受けました。これは、「家族葬」にしたことで何か問題が起きないかを心配してのことでしょう。しかし、浄土真宗のみ教えからは、参列者の多いお葬式であったとしても、小さな規模のお葬式であったとしても、関係ありません。浄土真宗のお葬式は、阿弥陀さまとのご縁、有縁の方々とのご縁をいただく場ですから、葬儀の参列者数のみで計るものではありません。

では、現実の問題として、「家族葬」にしたことで、どうしても起きてしまう問題もあります。例えば ①お葬式に行きたかったが、気づいたら終わっていた。②亡くなられたことをかなり後で知った。 という声が聞かれることがあります。一方、ご遺族からすると、①もう故人のことは忘れているだろう。 ②お葬式の連絡をしても迷惑だろうとの思いかもしれません。しかし、ご遺族と同じように故人を大切に思い、「親しい方の死」を悲しむ方が他にもいらっしゃることは多々あります。そうした方々と、故人の思い出を語り合う中に、思ってもみなかった故人の一面が知られることもあります。お葬式にお呼びしない場合でも、ご連絡を入れることで、ご納得いただけることもあるでしょうし、また、後のお参りの申し出にも対応できるようにしておくのが望ましいでしょう。

（「ねえ、お坊さん教えてよ」参照）